

【巻頭対談】西洋医学とカイロプラクティックの出会い

ホリスティックセラピーの可能性とは

元心臓血管外科医

村上 浩

Hiroshi Murakami

IHTA理事長

秋山 融

Toru Akiyama

2013年1月より、社団法人 国際ホリスティックセラピー協会の理事に就任した元心臓血管外科医の村上 浩さん。その推薦人はカイロプラクターであり、IHTA理事長の秋山 融さんだ。元サッカー選手という異色の経歴を持つ医師である村上さんが理事に就任するまでの経緯や、秋山さんと村上さんの運命的な出会い、そして二人のホリスティックセラピーへの熱い思いをじっくりと聞かせてもらった。

カリスマカイロプラクターと異色の心臓血管外科医の出会い

「既にIHTAの理事長として活躍する秋山先生の推薦で、今年の1月から理事に就任された村上先生。村上先生はどのような経緯で理事になられたのでしょうか？」

秋山 村上先生とは、去年の10月に共通の知人を通じて知り合ったんです。その知人は脊椎管狭窄症を患っていて、私の施術を受けにやって来た人でした。その時に一緒にやって来たのが村上先生。カイロプラクティックに興味があって同行したそうで、せっかくなので一緒に村上先生の施術も行ったんですよ。その効果に感動していただいて、本格的にカイロプラクティックを学ぶことを決めたそうです。私も、村上先生と話すうちに、それまでの経歴や仕事観などを聞いて「こんなドクターがいるのか」と驚きました。誠実で深く、初めて心から信頼できるドクターと出会ったという気持ちです。

村上 昔サッカーをやっていた時代に何度も全体の施術を受けたことがあり、サッカー選手として「整った体の状態」を覚えていたからこそ、秋山先生の施術を受けてその効果に感動したんです。ほんの10

分程度の施術なのに、「整った」という確かな実感が得られて、本当にびっくりしました。少し失礼な言い方もしませんが、「これはホンモノだ」と思いましたね（笑）。それに、秋山先生とは共通の知人も多く、何か運命的な縁を感じて、すぐに「弟子にしてください」とお願いしました。

秋山 弟子だなんて、気恥ずかしいのですが、医師として既にしっかり成功されている方が謙虚に「学びたい」という気持ちで来てくれるのは私としても嬉しく、医学やホリスティックの世界にとってもプラスになると思いました。もちろん私にとっても、医学のプロである村上先生から学ぶことや共有できることはたくさんあります。村上先生と一緒に活動していくことが、お互いのことや業界を高めていくことになると思います。IHTAの理事に推薦したのです。

「現在はどうのような活動をされているのですか？」

秋山 カイロプラクターとして、週に一回程度は患者さんの治療を行っています。IHTAの理事としての活動や書籍の監修、セミナー活動も行っています。セミナーでは、最近はいくつか食についての話をしていますね。極論を言うと、「健

康な物を食べれば健康になるし、不健康な物を食べれば不健康になる」と思っています。また、肉は健康な体を作る上で必要な栄養素ではありますが、「とにかく肉を食べれば健康になる」など、間違ったとらえ方をされていることがとても多く、もどかしい気持ちです。ファイトケミカルなど、食や健康についての正しく有用な知識を多くの人に伝えていく啓蒙活動を積極的にやっていきたいと思っています。

Hiroshi Murakami

村上 浩（むらかみ ひろし）

1969年、東京都生まれ。ジュニアユース(U-16)日本代表としてアジア予選でのプレー経験や高校選手権への出場経験を持つ。日本自動車サッカー部に所属しながら聖マリアンナ医科大学にて医学を学び、1年後に医師の道を選んでサッカー界を引退。心臓血管外科医として多くの手術を手掛ける中、2012年に秋山融と出会い、2013年1月より社団法人 国際ホリスティックセラピー協会理事に就任。趣味はピアノ。

Toru Akiyama

秋山 融（あきやま とおる）

1951年、東京都生まれ。YMCメディカルトレーナーズスクール最優秀技術顧問/社団法人 国際ホリスティックセラピー協会理事長。柔道整復師として骨・関節骨格を専攻し、カイロプラクティックと出会った後はカイロプラクターとして多くの患者の施術を行う。的確で効果的な施術に政治家やスポーツ選手、芸能人までも足跡の残るカリスマカイロプラクター。趣味はジョギング、ゴルフ、ジム通い。

※たとえばトマトの「リコピン」など、食物に含まれる栄養素以外の機能性成分のこと。第7の栄養素として注目。

Text by 村上 浩
Photo by 佐々木 信行

村上 心臓血管外科医として務めていた医大病院を昨年の11月に退職し、今は在宅診療をしながら、カイロプラクティックについて勉強中です。IHITAのテキストを読み込んで勉強していますよ。手技については秋山先生直々に教えてもらっています。

秋山 村上先生は理論や人体の構造については十分にご存知なので、とても楽な生徒ですよ。学んだ手技を自分の臨床経験とうまく融合させながら、オリジナルの技術を磨いていくってくれるはずですよ。既に理事として認定校のテキストの監修などもしてくれています。

“誰も犠牲にしない医学”を追い求めて

「プロのサッカー選手でいらしたという非常にユニークな経歴をもつ村上先生ですが、そもそも医学の道を志したきっかけは何だったのでしょうか。」

村上 ジュニアユース時代の17歳くらいの頃、チームドクターが「人間の体は内なる宇宙だ」と言ったことがあったんです。どのような流れでそんな言葉が出たのか全く覚えていないのですが、とにかくその言葉に非常にインパクトがあって、「人間の体ってすごい」と思い、医学に興味を持つようになりました。

西洋医学、東洋医学、カイロプラクティック、整体など、ホリスティックな観点から人間の健康にアプローチすることは非常に有効なことでしょう。

た。サッカー選手としてワールドカップに出場することが夢でしたが、もう一つの夢として、チームのサポートができるような医師になりたいと思いました。

高校卒業後は日産自動車のサッカー部に所属しながら、同時に聖マリアンナ医科大学にも進学し、一年ほど両立を頑張りました。高校時代にドイツを訪れて現地の先進的なサッカー事情を目の当たりにしていたため、当時の日本のサッカー界の遅れに

愕然としたことをきっかけに、サッカー選手としての自分の未来が思い描けなくなってしまったんです。

秋山 それで医学の道の方を？
村上 はい。サッカーの道は断ち切って、医学に専念することになりました。サッカーのチームドクターを目指していたのでスポーツ医学を学びたかったのですが、ひょんなことから心臓血管外科医に。数多くの手術を経験してきて感じたのは、「血管

の手術はきりがいい」ということ。血管の手術は「姑息手術」と言って、あくまで一時的な処置です。どこか一カ所を手術してもまた別の場所に問題が生じてしまう。次第に「こんなに具合が悪くなる前にどうにかできなかったのか」という思いがわき上がるようになりました。それに、手術をする側にも多大なリスクが生じるんです。一度のオペに動員されるのは8〜10人のスタッフ。そのスタッフたち

が夜通し必死で手術をしても、オペが必要な患者は次から次へと増えるばかりです。徹夜と不規則な生活が続く、人として健全な状態が保てなくなるような状況に、疑問を覚えるばかりでした。

秋山 そもそも患者が手術が必要になるほどの病気になるわけばいい、ということだね。それで、予防医学的な側面を持つカイロプラクティックに興味を持ったわけだ。

心臓血管外科医としての経験や知識を生かした健康作りの啓蒙活動を行っていききたいと思っています。

目指すのは、ホリスティックな健康作り

「まさに運命的とも言えるお二人の出会いだったんですね。村上先生が求める医療の道は対症療法を武器とする西洋医学と、予防医学が生きるカイロプラクティックの融合ということですね。まさに「ホリスティックな医学」と言えるのではないのでしょうか。」
秋山 ホリスティックセラピーには「全体的」「包括的」という概念があります。人間を、全体でとらえ、心・体・意識の全てのバランスを整えることで健康な状態を作るんですね。人間が持つ自然治癒力を高め、生かすことが大切です。西洋医学、東洋医学、カイロプラクティック、整体など、ホリスティックな観点から人間の健康にアプローチすることは非常に有効なことでしょう。

村上 とにかく良い方向性で治療を進められればいい、と思うんです。それぞれの分野にメリットとデメリットがありますから、どれか一つに偏った治療をするのではなく、それぞれの良い点を利用して健康な体作りのお手伝いをしていきたいですね。筋肉や骨など、体を包む物がしっかりしていないと、体の中身は整いません。秋山先生のもとでカイロプラクティックを学びながら、心臓血管外科医としての経験や知識を生かした健康作りの啓蒙活動を行っていききたいと思っています。

「お二人のこれからの目標と、会員の方へのメッセージをお聞かせください。」
秋山 先日もさっそく二人でセミナーを行ったのですが、今後はさらに大々的に開催したいですね。講師が二人登壇することで、講義の内容にも幅と深みが出ますから、参加者の知識の引き出しをより多く広げてあげることができるとは思います。

ホリスティックの世界は臨床経験が全てですから、「一生勉強」です。答えも終わりのない点がこの仕事の魅力だと思います。みなさんも、是非たくさん臨床経験を積んで、IHITAのセミナーや勉強会に参加し、学んだ多くの知識や技術を自分のノウハウと融合させ、オリジナル

